

**令和6年度神奈川県生活習慣病対策委員会がん・循環器病対策部会
各分科会 開催状況等について**

1 各分科会の開催状況について

(1) 循環器疾患等分科会

開催見送り

(2) 胃がん分科会

令和7年2月6日(木) 出席委員：5名(委員数6名)

(3) 子宮がん分科会

令和7年1月28日(火) 出席委員：7名(委員数7名)

(4) 乳がん分科会

令和7年2月5日(水) 出席委員：5名(委員数6名)

(5) 肺がん分科会

令和7年2月4日(火) 出席委員：6名(委員数6名)

(6) 大腸がん分科会

令和7年1月16日(木) 出席委員：5名(委員数5名)

※ (2)～(6)はいずれもWEB形式

2 各がん分科会の主な議題

(1) 令和3年度がん検診の実施状況等について

(2) 分科会の運営方法の見直しについて

3 各がん分科会の開催結果概要

(1) 胃がん分科会

ア 令和3年度がん検診の実施状況等について

- 胃がんは、検診で早く発見できれば治る疾患である。県が率先して受診率向上に取り組み、県民はきちんと検診を受け、早期がんである場合は治癒していくという方向にもっていきたい。
- 精検受診率が上がっていくことが望ましい。未受診者に比べて未把握者が多いので、未把握を減らしていく努力も必要だが、未把握を減らしつつ、把握したら受診勧奨につなげていきたい。
- 受診率向上のための取組はあるか。
⇒ (県) 検診を魅力的なものにすることに軸足を置いていく。特定健診とがん検診を同時実施できる取組について、関係機関と調整を図っている。

イ 分科会の運営方法の見直しについて

- 賛成である。ある市では様々な取組を行い、その結果が受診率に如実に表れているので、市町村の参画は重要。人選は絞る必要がある。
⇒ (県) 市町村については、構成する会議体から推薦してもらうことを想定している。
学識経験者については、全ての方に参画していただくのは困難なため、各会長と相談し、協議可能な人数について検討していく。

(2) 子宮がん分科会

ア 令和3年度がん検診の実施状況等について

- 検診結果について、以前から直近の数値を出せないかという議論があったと思うが、難しいのか。
- ⇒ (県) 精検受診率は、国の統計指標が、今年度でいうと、令和3年度分までしか公表されていない。一方、がん検診については、令和4年度分まで公表されているので、もう少し直近の数値を出すことはできる。しかし、同じ年度の内容を議論する観点から、同一年度のデータを使用している。

イ 分科会の運営方法の見直しについて

- 各分科会で検討している、がん検診の実施状況や精度管理をひとつの分科会で議論すると、かなりのボリュームになると思う。市町村や特定健診の保険者を加えて、具体的にどのような議論を行うのか。
- ⇒ (県) 5大がんに係る市町村の検診・精密検査の実施状況等を報告することには変わりはなく、総合的な意見を伺いたい。資料の説明方法など、運営方法を工夫していきたい。市町村や保険者の参画により、より実情に近い内容を報告できると考えている。
- がん種ごとの比較ができるデータをまとめてプレゼンするとの理解でよいか。
- ⇒ (県) お見込のとおり。

(3) 乳がん分科会

ア 令和3年度がん検診の実施状況等について

- 集団検診実施機関の実績について、本欄は受診者数が多い機関の方が数値は安定しているはずであり、それを満たしていないのであれば、その機関は適切に検診しているのかということになる。委託機関によって見逃しがおきるなど、検診のクオリティが変わることは危惧する。

イ 分科会の運営方法の見直しについて

- 精度管理は、統合された分科会での議論にはなじまない部分があると思うが、別途議論の機会を設けるのか。
- ⇒ (県) 制度管理は、都道府県が基礎自治体の検診をサポートすることから、引き続き委員からコメントをいただく。運営については、より効率的な方法を考えていきたい。
- 新しい開催方法は合理的だと考える。

(4) 肺がん分科会

ア 令和3年度がん検診の実施状況等について

- 県全体の精検受診率が全国値より低く、未把握率が高いとのことだが、改善の方針は。
- ⇒ (県) ナッジを利用したがん検診ポスターやチラシの作成により、受診促進を行っている。
- 第1指標、第2指標ともに令和元年から令和3年度にかけて対象者数が減少しているが、その理由は。
- ⇒ (県) 第1指標は被用者保険の適用拡大によるもの、第2指標は県全体の人口が徐々に減少していることが考えられる。

イ 分科会の運営方法の見直しについて

- がん検診の実施主体である市町村の参画はとてもよいが、年に1度の開催だと、分科会にて検討した内容についての経過措置がよく分からないという実情がある。活発な議論と結果の確実な実行を考慮すると、年に2回の開催が望ましいと考える。
⇒（県）開催回数については、今後、意見を頂戴しながら検討してまいりたい。

（５）大腸がん分科会

ア 令和３年度がん検診の実施状況等について

- 例年、受診率が低いところへ指導をしていると思うが、効果はあまり上がらないのか。
⇒（県）市町村には努力いただいているところで、コロナ禍の影響を脱した３年度には伸びている。引き続き上昇を目指していきたい。
- 精検受診率向上や精度管理等については、県の指導が必要と考える。
⇒（県）個別の市町村の事情もあると思うので、市町村とともに受診率向上について検討していきたい。

イ 分科会の運営方法の見直しについて

- 見直しは必要なことだと思う。十分に進めていってほしい。
- 特定健診とがん検診の同時実施は有効な方策なのか。
⇒（県）県民が受診する際、同日に実施すれば受診率の向上に繋がると考えている。すでにその実施に向けた検討を進めている自治体もある。

以上